

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」千曲市の結果について

千曲市教育委員会

千曲市でも、児童生徒一人ひとりに、新しい時代で必要となる資質・能力を育成するために、「全国学力・学習状況調査」を行い、学力や学習の状況を把握して教育指導の充実や学習状況の改善などに活用しています。

今年度は、国語、算数・数学、理科が実施されました。

この調査により測定できるのは、児童生徒の学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面であることに留意して結果・分析をご覧ください。

「全国学力・学習状況調査」

- 調査日 令和7年4月17日（木）
- 対象者 小学校6年生（9小学校）391 / 429人、中学校3年生（4中学校）380 / 438人
- 調査内容 ○教科に関する調査 ○生活習慣や学習環境などに関する児童生徒質問紙調査
- 調査方法 中学校理科は文科省のCBTシステムによるオンライン方式で実施（一人一台端末での解答）、来年度は中学校英語もCBTで実施を予定、令和9年度からは小中学校とも全教科がCBTでの実施に変更される。

「全国学力・学習状況調査」 教科に関する調査

調査科目	平均正答率の比較・調査結果の概要	今後の取組
小学校6年生	○全国・長野県と同程度 文章を読んで自分が納得したこと、その理由を3つの資料から選んで書く問題では、全国と同様に約5割の正答率でした。「目的に応じて複数の文章と図表を結び付けて必要な情報を見つけること」に課題があります。	文章の中の重要部分を見つけて、丸で囲む、線でつなぐなどして情報の関係や結びつきを視覚的に明らかにしながら読む指導を行っていきます。特にインターネットの情報を資料として活用する場面で大切に取り組んでいきます。
	○全国・長野県と同程度 ハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために必要な事柄を判断し求め方を書く問題では、多くの児童が理解しており、全国と比較して正答率が高くなっています。	単にやり方を習得していくのではなく、日常生活の場面に照らし合わせて判断していくような学び方、どの数値に着目して判断したかを他者にも分かりやすく説明するなどの学習で理解を深めていきます。
	○全国・長野県と同程度 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の実験結果から結論を導いた理由を表現できるかみる問題では、全国と同様に多くの児童が理解しており、無答率も低くなっていました。	「自分で解決したい問題を見いだす」「既習の知識を活用して解決していく」「予想や仮説を大切にして実験を行う」「振り返りを行って修正して再度取り組む」などの学習を大切にしていきます。

調査科目	平均正答率の比較・調査結果の概要		今後の取組
中学校3年生	国語	○全国・長野県と同程度 昨年度の感想から工夫を行った中学校の美術展のチラシの文章を書くなどの記述式の問題を含め、全国と比較して、正答率が大きく低い問題、無答率が高い問題は見られませんでした。	引き続き、何のために書いたり話したりするのかという目的を明確にした学習活動、どんな力をつけていくのかを教師、生徒で共有して進めていく授業を行っていきます。
	数学	○全国よりやや下回る・長野県と同程度 じやんけんゲームで「グー」「チョキ」「パー」「パー」のカードをもったAと「グー」「チョキ」をもったBの勝ちやすさの理由について、確率を用いて説明する問題は全国と同様に課題が見られます。	具体物を使って実際に操作しながら確かめてみる活動などを行い、確率を用いることの必要性やよさについて実感が伴った理解につながるような学習を充実させていきます。
	理科	○全国・長野県と同程度 マグネシウムが二酸化炭素の中で燃焼する動画を見て、そこで起きた化学変化を原子や分子のモデルで表す問題で、全国と比較して正答率が高かったものの、全国的には課題とされました。	引き続き、疑問や振り返りを大切にする授業を充実させていきます。特に、自分の考えの変容について探究の各過程で記録していく、モデルを用いて実際に動かしながら考察するなどの指導を大切にします。

※「平均正答率の比較・調査結果の概要」は、千曲市と全国や長野県の公立小・中学校との平均正答率を比較するなどの分析から、市内の児童生徒の学習状況の特徴や課題を記述しています。

これを踏まえ「今後の取組」は、これから小中学校で取り組んでいく指導の方向を記述しています。

「全国学力・学習状況調査」 生活習慣や学習環境などに関する児童生徒質問紙調査

区分	質問	はいと回答した割合(%) ()は令和5年度		全国との比較
		小学校6年生	中学校3年生	
自己有用感	自分にはよいところがあると思いますか	86.5 (87.8)	91.3 (86.9)	全国と比べて、小6児童は同程度です。中3生徒は上回っています。
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	95.0 (93.6)	97.2 (95.5)	全国と比べて、小6児童は同程度です。中3生徒は上回っています。
生活習慣	朝食を毎日食べていますか	96.1 (96.0)	95.1 (93.8)	全国と比べて、小6児童は同程度です。中3生徒は上回っています。
家庭学習習慣	学校の授業以外に、平日1時間以上勉強していますか	47.6 (45.1)	55.6 (65.7)	全国と比べて、小6児童、中3生徒とも下回っています。
	学校の休みの日に、1時間以上勉強していますか	45.9 (49.0)	64.6 (72.3)	全国と比べて、小6児童は下回っています。中3生徒は上回っています。

GIGA スクール	これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用しましたか	79.3 (92.8)	97.3 (97.7)	全国と比べて、小6児童、中3生徒とも大きく上回っています。
地域や社会に関わる活動	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	81.5 (86.1)	81.3 (86.4)	全国と比べて、小6児童は同程度です。中3生徒は上回っています。

※上記の『「はい」と回答した割合』は、「1 当てはまる」、「2 どちらかといえば当てはまる」、「3 どちらかといえば当てはまらない」、「4 当てはまらない」の選択肢の中から「1」または「2」を回答した児童生徒の割合です。

○**自己有用感** 自己有用感は、「失敗を恐れないで挑戦する」といった、子どもたち一人ひとりが将来にわたってよりよく生きていくためのエネルギーともなります。全国・長野県より大きく上回っていることが大変大きな特徴です。中学校3年生でも、学校の先生との温かく良好な関係の中で自分を精一杯伸ばしていることがわかります。

○**生活習慣** 本市の小中学生は早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活をしていると言えますが「毎日同じ時刻に寝ていますか」の質問は、今年度小学校6年生で調査が始まって以降初めて長野県・全国の肯定的割合よりやや低くなりました。各ご家庭でも、疲労回復や体の成長につながる「睡眠」のよさについてもう一度見直してみてください。

○**家庭学習** 各校で「家庭学習の手引き」など作成して指導を進めていますが、平日の家庭学習時間に課題があります。家庭学習につながるような授業のあり方などについて、より一層指導の工夫・改善をしていきます。

本市でも部活動の地域移行が進められ、児童・生徒の生活スタイルも大きく変化しようとしている時です。地域・家庭・学校で支え、子どもたちが学びに向かう力を育て、自分を精一杯伸ばしていくことが重要です。

○**GIGAスクール** ICT機器の活用については授業での活用回数はもちろん、活用能力、効力感に関する質問でも全国や他市町村に比べて肯定的な回答が非常の多くなっていました。これは、家庭・学校・市が連携して取り組んできた成果であり、本市の小中学校の大きな強みであると考えています。さらに一人一台端末をより有意義に活用して、学びを深めていくことを意識して取り組んでいきます。

○**地域や社会に関わる活動** 総合的な学習の時間などでふるさとを学ぶ学習や学習発表会が展開され、私たちの地域のあるべき姿について考える機会を得ているためと考えられます。

今後の対応について

■各学校

○調査結果を全職員で分析・考察し、これまでの指導の成果と課題を明確にしたうえで改善策、向上策を策定し、実践していきます。特に、全教科を通した「共通課題」については学校経営にビジョンやグランドデザインにも反映させ全教職員で取り組みます。

○分析をもとに、年間をとおして授業の充実・改善に取り組み。児童生徒一人一人の学力の定着とともに学習意欲の向上を図ります。

○基本的な生活習慣や学習習慣の確立が学力の向上を図る上で重要であるとの認識に立ち、家庭学習の仕方について指導し保護者と連携して生活・学習習慣の改善や個々の学習改善に向けた取り組みに努めます。

○児童生徒の個々の結果については、個別懇談会などを通じて伝えるとともに、それぞれの課題に応じた学習指導を適切に行っていきます。

○一人一台端末については、千曲市 GIGA スクール推進委員会を中心に研修などを充実させ、より有意義な活用を進めていきます。

■市学力向上推進委員会 小中学校の学力向上推進担当者と教育委員会で組織

○各校の調査結果について分析、考察、改善策の策定などを推進・支援し、授業改善、児童生徒の学習習慣獲得などを生かします。

○中学校区内の情報交換に努め、小学校・中学校間で課題を共有します。

○結果を分析して結果報告書をまとめ、「授業改善のポイント」「生活・学習習慣改善のポイント」「学校運営改善のポイント」を提言するなどして、各校の授業改善、児童生徒の生活改善などに生かします。

○信州大学茅野公穂教授指導のもと、より鋭角的に各校の授業改善を推進していきます。

■教育委員会

○必要に応じて学校を訪問するなどして学校の毎日の授業の状況を共有し、学力向上推進、受領改善のために必要な指導や支援を行います。

○適切な学びの場の設定、学習の困難さを克服できる支援の充実に努めます。

○教職員の研修や配置及び GIGA スクール推進などの教育施策の充実に努めます。